

MGD 診療ストラテジー～MGD の診断法と治療法、症例提示～

一般眼科外来において毎週外来を訪れ、眼不定愁訴を強く訴えるマイボーム腺機能不全 (MGD)患者は年々増加している。症状だけではドライアイ患者と鑑別できず、ドライアイの治療だけでは患者の満足が得られないことが多い。MGD は眼瞼と涙液の両方にまたがった疾患であることから診断、治療もその両方からのアプローチが必要であるが、涙液側からだけの治療、すなわちドライアイのみの治療をされているケースが少なくない。慢性疾患である MGD は治療が遅れることでさらに治療に抵抗性を示すことがある。そこで今回のコースでは MGD の診断、治療を積極的に行うことで患者の自覚症状、他覚所見の改善を得ることを目的として MGD の診断法、治療法を具体的に解説する。診断法では 2010 年 MGD ワーキンググループにより提案された閉塞型 MGD の診断基準に基づき、スリットランプでの診断、スリットランプ以外での診断、検査にわけて多くの写真や動画を用いてお話させていただく予定である。治療法は、2011 年 TFOS MGD ワークショップに基づき、患者指導、Warm Compress、Lid hygiene、抗炎症を目的とした内服、抗炎症の点眼などを具体的にそれぞれ症例提示しながらご紹介する予定である。最後に総まとめとして診断法や治療法を駆使することで臨床診断や治療に有効だった症例をご紹介し実感として“明日からの診療に役立つ診療ストラテジー”の理解を深めていただきたいと考えている。

(分担)

1. Overview MGD 診断、治療法の総説 (担当:有田玲子 7 分+質疑応答 3 分)
2. スリットランプによる所見のとりかた (担当:高静花 7 分+質疑応答 3 分)
3. スリットランプ以外の検査 (担当:白川理香 7 分+質疑応答 3 分)
4. 症例提示 (担当:川島素子 3 分+質疑応答 2 分)
5. Warm Compress、Lid hygiene、患者さん指導のコツ (担当:森重直行 7 分+質疑応答 3 分)
6. 抗炎症を目的とした内服療法 (担当:崎元暢 7 分+質疑応答 3 分)
7. 抗炎症の点眼 (担当:鈴木崇 7 分+質疑応答 3 分)
8. 症例提示 (担当:川島素子 3 分+質疑応答 2 分)
9. まとめと全体質疑応答 (20 分)

(得られる結果、達成目標)

一般臨床において遭遇する頻度の高い MGD は症状だけではドライアイと鑑別できない疾患である。診断する際、最も重要なのはマイボーム腺開口部が存在する眼瞼縁の異常所見をスリットランプで正確に診断することである。診断を確実にするための補助的検査として非侵襲的マイボグラフィや涙液油層の観察、共焦

点頭微鏡所見などがあげられる。本コースではそれらの検査のコツをわかりやすく解説し、‘マイボーム腺の立場にたった診断’について明日からの臨床に役立つ内容をご紹介します。さらに、治療方法では、温罨法や眼瞼清拭の施行法に関してビデオを用いて解説し、実際の臨床現場での患者さんへの説明法を紹介する。抗炎症を目的とした内服薬の使い方や抗炎症点眼を用いた治療法を症例提示しながら‘マイボーム腺の立場にたった治療’をわかりやすく解説する。本インストラクションコースでは MGD の各診断法、治療法を縦割りで解説し、症例提示を通して横割りで MGD という疾患全体の理解を深めるコースとしていきたい。